

中長期の経営方針

私たちは、VUCA(ブーカ)と言われる先行きが見通せない厳しい環境の下、これまでのような中期経営計画の更新ではなく、長期的なあるべき姿からバックキャストする視点を取り入れ、グローバルを含めた全部門の意見を踏まえ検討し、中長期経営構想「Beyond the OCEAN」と、そのマイルストーンとしての中期経営計画「NEXUS-26」を策定し、これに基づき経営を進めています。

中長期経営構想

Beyond the OCEAN

長期的な外部環境変化の流れと、モビリティの変化の中で、当社が生き残っていくためには、「技術と現場力」、「信頼とNo.1シェア」といった強みを徹底的に活かすことが必要です。そのためには、当社で働く仲間たちが活躍して、「新しい価値づくり」にチャレンジしていくための、「パーパスを実現する人財戦略」が極めて重要です。そのうえで、長期的な注力テーマとして、「売上と利益が共に成長していくこと」「多様な技術によって価値をつくっていくこと」「サステナビリティと経営を統合すること」を掲げました。

中長期経営構想の考え方

激変する市場環境に対し、人財が強みを活かし、持続可能な成長へ



2023年度に実施した第一回調査に基づき検討を進め、
2024年4月に「従業員エンゲージメント」の経営目標値を新たに設けました。

財務価値目標

資本効率を高め、持続可能な成長を実現する

	2022年度実績	2026年度目標	2030年度目標
売上高	1,912億円	2,100億円	持続的成長
営業利益率	4.9%	7%以上	10%以上
ROE	7.0%	8%以上	10%以上

非財務価値目標

■事業価値目標
製品を通して、社会・顧客課題を解決する

主力事業	2026年度目標	2030年度目標
電動車向け売上比率 (当社試算)	50%	70%
新事業 新規商品・サービス上市件数 (2023年度から)	15件	35件

■サステナビリティ価値目標
従業員が力を発揮し、持続可能な成長を実現する

人的資本	2026年度目標	2030年度目標
従業員エンゲージメント <small>新規</small>	60%以上	70%以上
自然資本 CO ₂ 排出量	30%削減	50%削減

(肯定回答率、単体) (2019年度比、スコープ1,2、グループ)

市場環境の変化は激しさを増しており、想定した通りの市場環境、成長シナリオにならない可能性もあります。こうした時代に生き残るために、どのように環境が変化しても、しなやかに乗り越えられるレジリエンスが重要であると認識しています。中長期の経営方針の中では、多様な人材の活躍、事業領域の拡大、ステークホルダーとの信頼醸成、適正な財務水準といった要素が組み込まれており、これらはいずれもレジリエンスにつながるものです。

レジリエンスを高める

多様な人材が活躍

- 環境変化に適応する能力の向上
- 変化に挑むチャレンジスピリット
- 誰もが活躍できる環境づくり

P39
人財戦略

事業領域の拡大

- モビリティ分野での顧客・製品の多様化
- 社会課題を解決する新規事業の創出

P33
事業戦略

ステークホルダーとの信頼醸成

- パーパスに共感して高め合う仲間
- 助け合いながら共存共栄できる取引先
- 株主・投資家と建設的な対話を実施

P51

適正な財務水準

- 大きな変化に耐えられる財務体質
- 成長投資にも資本コストを意識し、効率向上を図る

P53
財務戦略

リスクマネジメント

グローバルにリスクと機会を統合的に捉え、PDCAをまわす

中期経営計画

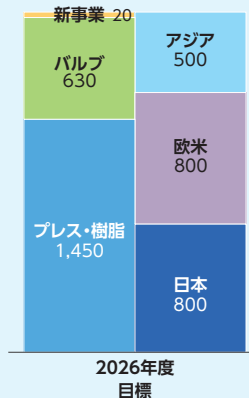
NEXUS-26

「NEXUS-26」における事業別のめざす姿は、4つのテーマで整理しました。プレスは、生産変動に耐えうる現場力をベースに、軽量化や生産時のCO₂削減など脱炭素への寄与も踏まえ、ボディ構造提案により拡販を進め、付加価値を高めることで売上と利益を高めていきます。樹脂は、強みである防音・加飾技術を活かし、新規顧客への拡販を強化するとともに、サーキュラーエコノミーを踏まえた材料・製品開発で、持続可能な成長をめざします。

バルブ・TPMSは、無線通信技術や高品質といった強みを活かし、高い付加価値を生み出す開発型事業をめざすと同時に、電動車向け製品で事業の新たな柱を創造します。新製品については、これまで上市した製品をバージョンアップして深化を追求しつつ、新分野への探索を強化し、社会課題を解決するデータビジネスが柱となるよう育てていきたいと思ひます。

各事業・各地域で成長 セグメント別売上高

2,100億円



2030年度および2026年度事業別のめざす姿

長期的なあるべき姿を描き、中期の具体策を策定

	2026年度	売上・利益 増加イメージ 2022年度比	2030年度	売上・利益 増加イメージ 2026年度比
プレス	<ul style="list-style-type: none"> 脱炭素実現に貢献する製品づくり ものづくり力・技術力向上 生産技術革新 強固な事業基盤の確立 	売上 ↑ 利益 ↑	<ul style="list-style-type: none"> 脱炭素時代に選ばれる高付加価値事業へ 生産技術革新で、他社を凌駕するコスト競争力の確立 	売上 ↑ 利益 ↑
樹脂	<ul style="list-style-type: none"> 防音・加飾技術で新規領域拡大 グローバルで新規顧客開拓 顧客ニーズを捉えた材料・製品開発力の強化 	売上 ↑ 利益 ↑	<ul style="list-style-type: none"> 防音・加飾技術を応用し新市場の創出 サーキュラーエコノミーへの転換 	売上 ↑ 利益 ↑
バルブ TPMS	<ul style="list-style-type: none"> 電動化を見据えたスマート製品の開発・提供 技術を融合し高機能・高付加価値商品の継続的企画提案 	売上 ↑ 利益 →	<ul style="list-style-type: none"> 高い技術で機能を提供する開発型事業へ 電動車向け製品で事業の新たな柱を創造 	売上 ↑ 利益 ↑
新製品	<ul style="list-style-type: none"> 物流、畜産に続く新規事業領域の探索 既存領域の深化 	売上 ↑ 利益 ↑	<ul style="list-style-type: none"> IoT商品・システムにより社会課題を解決できる企業へ データビジネスを新規事業の柱へ 	売上 ↑ 利益 ↑

↑10%以上 ↑10%未満 →横ばい